

第 42 回 奈良市文化振興計画推進委員会 会議録

開催日時	令和 6 年 10 月 18 日（金） 午前 10 時 45 分～12 時まで	
開催場所	奈良市役所北棟 202 会議室	
議題	1. 開 会 2. 会長挨拶 3. 議 事 (1) 奈良市音声館 実施計画（案）について 4. その他	
出席者	委員	萩原会長、上田委員、小野委員、島委員、風間委員、松下委員 【計 6 人出席】
	事務局	谷田市民部部長、池田市民部次長、（以下文化振興課）森課長、荒益課長補佐、吉川課長補佐、徳山総務係長、
開催形態	公開（傍聴人 0 人）	
決定事項	・ 今回の会議録の署名は、萩原会長と松下委員が行う。	
担当課	市民部文化振興課	

議事の内容

- 1.開会
2.会長挨拶
3.議事
 (1) 奈良市音声館 実施計画（案）について
- ・ 条例の改正案について、9月の市議会にて可決されたことを報告した。
 - ・ 文化施設のあり方検討部会にて議論された内容等をもとに、奈良市音声館の実施計画（案）が作成され、その内容を説明。
 - ・ 本委員会に先立って行われた「文化施設のあり方検討部会」において、以下の4点が意見として出されたことを説明。
 - ① P.9「文化的コモンズの形成」という言葉がわかりやすくなるような注釈をつけてはどうか
 - ② P.9「文化的コモンズの形成」についてはイラストや図をいれてはどうか
 - ③ P.10「「きっかけ」がうまれる場所づくり」の項目の説明に「交流を促進する取組み」といった内容を追記する
 - ④ P.10「奈良の文化的魅力を国内外へ」の項目及びその説明に「文化を通じた相互理解を進める」といった内容を追記する

〈文化施設のあり方検討部会 委員からの補足〉

- ・ 第2次奈良市文化振興計画の作成において、施設のあり方まで十分に検討ができていなかったという委員会の反省もあり、いったんは音声館について検討を行ってきた。

- ・あり方の検討を進めるなかで、条例の狭い範囲では、例えばならまちに来る訪日外国人など、さまざまな人を対象にする取組みが難しい。そういった理由もあり条例改正の提案となった。

〈委員からの意見〉

- ・実施計画（案）にある新たな4つのコンセプトは、運営する指標としては非常によくまとめられてる。
- ・「きっかけがうまれる場所づくり」はとても難しい。一過性なものになりがちなところを、文化振興条例にあるように、文化が私たちの暮らしをサポートするような状況へとつなげるには、「きっかけ」から次の段階へと進んでいくが、その部分が特に難しく、運営者のディレクションにおいて工夫が必要になってくる。
- ・「文化的魅力を国内外へ」ということは必要なことであり、他の施設と連携しながら取り組んでいくべき。
- ・計画（案）に具体性が欠けるようにも思われるが、具体的な取組みは指定管理者をはじめ、施設運営に関わる人たちで共に考えていくべきという考え方から。そういった点では名称を「計画」でなく他の言い方にする方がいいかもしれない。市で検討していただくよう、願います。
- ・課題認識が明確になったのであれば、しっかりと予算化していくことが必要だと感じる。
- ・ならまちのまちづくりの団体も高齢化が問題になっている。地元の施設を支えていくための人材育成が重要であり、かつ時間がかかることだと思う。
- ・指定管理者制度は約20年経つが、企画ができる人材に富んだ事業者を募集していくことは限界が来ている。これからは行政が、施設づくりを運営者と一緒にやりながら、人材を育てていくようなことが必要ではないか。
- ・本案については、本委員会の意見を踏まえ、市は最終版を作成すること。

以上、議題終了